

経済学委員会ワークライフバランス研究分科会（第24期・第2回）議事録
（文責：大石）

1. 会議名 経済学委員会ワークライフバランス研究分科会（第24期・第2回）
2. 日時 平成30年10月12日（金）10時40分～12時40分
3. 会場 お茶の水女子大学 経済学資料室（305号室）（東京都文京区大塚2-1-1）
4. 出欠（順不同・敬称略）（定足数4名）
出席（5名）：白井恵美子・大石亜希子・菅原ますみ・永瀬伸子・吉沢豊予子
欠席（4名）：宇南山卓（在米）・大竹文雄・武石恵美子・久本憲夫

5. 議事

（1）委員からの研究報告とディスカッション

菅原ますみ氏「親の就労の子どもの発達への影響」

白井恵美子氏「親の働き方と子どもの家庭教育」

（2）提言の方向性について議論

- ・ 長時間労働が家族（とくに 子供）に及ぼす外部性 についてエビデンスになるような文献を委員間で共有する必要性。（菅原委員からの資料を添付）
- ・ 医学系分野で話題となっている、長時間労働と男性不妊などの問題 もエビデンスとともに示せば、負の外部性として一般の認識が広まるのではないか。
- ・ 労働時間の上限がいぜんとして労災認定基準で高いため、より低い水準に設定する必要性を強調できるエビデンスがほしい。とくに、労働時間が一定の閾値（例：週50時間など）を超えると悪影響が出ることを示すような論文等。
- ・ 単なる時短ではなく、勤務間インターバル導入を提言するためには、休息時間確保の必要性や、非典型時間帯労働の問題 が説得的に訴えられることが必要。これについても、医学系や心理学系その他自然科学系からのエビデンスを集めたい。

（3）報告

千葉大学のプロジェクトで12月16日に開催する移民介護労働者とケア、WLBをめぐるシンポジウム（資料添付）を学術会議との共同主催としていただくことについて、WLB研究分科会のシンポジウムということで幹事会に申請し、承認を得た。分科会からは、久本委員と大石が参加。